

フランス語の前置詞 à とスペイン語の前置詞 a の意味特性

Propriétés sémantiques de la préposition française « à » et de la préposition espagnole « a »

藤田 健

Takeshi FUJITA

0. はじめに

フランス語の前置詞 à とスペイン語の前置詞 a はいずれもラテン語の前置詞 ad にその起源をもち、多くの機能を共有している。例えば、その代表的な機能として与格標示(1)、時(2)・場所(3)・手段(4)の標示があげられる¹。

(1) a. Je l'ai donné à Pierre. b. Se lo di a Pedro. (2) a. à six heures b. a las seis

(3) a. La gare est à 500 mètres d'ici. b. La estación está a 500 metros de aquí. (4) a. aller à pied b. ir a pie

しかし、個々の用法を詳細に検討してみると、両者には相違点が少なからず観察される。これは、起源が同一であっても、各言語の体系においてそれぞれの前置詞が独自の意味機能を獲得していることを示している。それぞれの前置詞についての個別の分析は従来見られるが、両者を理論的な観点から詳細に対照分析した研究は見られない。本稿では、両者における意味機能の相違点のいくつかに着目し、それがどのような特性によって引き起こされるのかを考察していく²。

1. 異なる意味機能

フランス語の à のみで見られる機能として、所有者(5)・用途(6)・属性(7,8,9)の標示がある。スペイン語では、この機能は a とは異なる前置詞が担う。

(5) a. Ce livre est à ma mère. b. Este libro es de mi madre. (6) a. machine à écrire b. máquina de escribir

(7) a. une fille aux yeux verts b. una chica de ojos verdes (8) a. café au lait b. café con leche

(9) a. — Cent trente-huit, répondit le plus jeune Chinois, un adolescent à la tête petite, à la pomme d'Adam très marquée et aux épaules tombantes, vêtu en ouvrier. (A)³

b. — Ciento treinta y ocho — respondió el chino más joven, un adolescente de cabeza pequeña, con la nuez muy marcada y los hombros caídos, vestido de obrero.

スペイン語の a のみに観察されるのは、対格(10)、終点(11)・移動の目的(12)、名詞句における対象項(13,14,15)を標示する機能である。フランス語では、対格は無標の形式であり、終点・移動の目的、名詞句における対象項の標示には à 以外の前置詞が用いられる。

(10) a. J'attends Marie. b. Espero a María. (11) a. peu de jours après b. a los pocos días

(12) a. Il entra pour payer. b. Entró a pagar. (13) a. peur du loup b. miedo al lobo

(14) a. Il avait le droit d'avoir envie de n'importe quoi. (A) b. Tenía derecho a sentir deseo de algo.

(15) a. De sa jeunesse le capitaine avait conservé un certain goût pour la lecture.

b. De su juventud el capitán conservaba cierta afición a la lectura. (B)

また、共通する機能である場所・時の標示に関しても、異なる点が見られる。他の前置詞との機能分担が両者で異なっているのである。静止場所の標示において、フランス語で à が用いられる場合にスペイン語で他の前置詞が用いられる場合が少なからず存在する。

(16) a. être à Paris b. estar en París (17) a. au premier étage b. en el primer piso

(18) a. Le dormeur, couché sur le dos, au milieu du lit à l'européenne, n'était habillé que d'un caleçon court. (A)

b. El durmiente, acostado sobre la espalda, en medio del lecho a la europea, sólo se hallaba vestido con unos calzoncillos cortos.

(19) a. Sur les toits, il y avait déjà des ombres à leur poste. (A) b. Sobre los tejados, ya había sombras en su puesto.

これに対して、移動の着点を標示する機能は、スペイン語では基本的に a が担うのに対し、フランス語では à とともに他の前置詞も用いられる。

(20) a. aller en Espagne b. ir a España c. aller au Japon d. ir a Japón

(21) a. Il le fit passer dans sa main droite. (A) b. Lo hizo pasar a su mano derecha.

(22) a. — Où veux-tu le faire passer ? — Dans le port même. (A)

b. — ¿Adónde quieres hacerlo pasar ? — Al puerto mismo.

時を標示する機能に関しても、両言語で異なる前置詞が用いられる例が観察される。

(23) a. au printemps b. en primavera

(24) a. À l'époque, la capitale de l'Espagne était un lieu où la vie ne tenait souvent qu'à un fil, au coin d'une rue, au bout d'une pointe d'acier.

b. En aquellos tiempos la capital de las Españas era un lugar donde la vida había que buscársela a salto de mata, en una esquina, entre el brillo de dos aceros. (B)

(25) a. Et, en même temps, Tchen se sentit bafoué. (A) b. Y, al mismo tiempo, Chen se sintió burlado.

2. 前置詞の意味特性

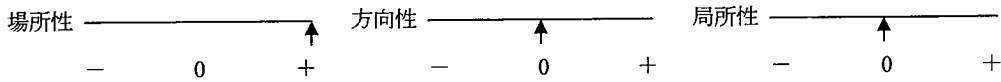
前節で見た前置詞の機能の相違を、それぞれの前置詞のもつ意味特性という観点から説明を試みたい。両言語における à と a の分布の違いが他の前置詞との機能分担の違いと直結していることから、両言語における前置詞 en の意味特性も考察する。

2. 1. à と a

フランス語の à もスペイン語の a も場所を標示するという機能では共通している。本稿では、この二つの前置詞の意味特性として、場所に関わる三つの素性を仮定する。一つ目は「場所性」で、動作や状態が成立する場所を示すという性質である。二つ目は「方向性」で、移動に関わる動作の着点を示すという性質である。最後は「局所性」で、場所の中でも広がりをもたない局所的な地点を示すという性質である。

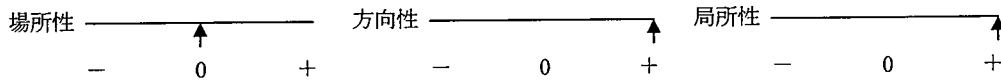
この三つの素性に関して、二つの前置詞は指定されている値が異なるために、機能の相違が生じると考えたい。フランス語の à については、以下のように仮定する。ここで、「0」とは、その素性に関して予め語彙的に指定されておらず、文において共起する要素との関係によってその素性が「+」となるか「-」となるかが決定されることを示している。

フランス語の à



Melis(2003)は、フランス語における場所を表す前置詞は方向性について指定されておらず、共起する要素によって決定されると主張する。本稿でもこの主張に従い、à は方向性に関しては指定されていないと考える。他の要素、例えば移動を表す動詞との共起によって方向性の機能をもつ場合、静止した位置に対応する場所性を表す機能はキャンセルされる⁴。局所性に関しても、共起する要素、例えば名詞の意味的特性によってその値が決定される。これに対して、スペイン語の a については、以下のように仮定する。

スペイン語の a



Hernández Alonso(1984)が既に述べているように、スペイン語の a の基本的な意味は方向性である。従って、語彙的には方向性が「+」と指定されている。しかし、方向性だけではとらえられない機能もある。この点を解決するために、局所性に関して「+」に指定されていると考えたい。また、場所性に関しては、共起する要素によってはその機能をもつことが可能なため、予め指定されていないと考える。場所を示す機能をもつ場合には、方向性、場合によっては局所性の機能はキャンセルされる。

以上の仮定の下に、具体的な事例を分析してみよう。まず、フランス語の à がもつ所有者の標示機能(5a)は、[+場所性]によって説明される。Jackendoff (1990)は、語彙概念意味論の枠組みで、空間に関する意味が他の意味場(semantic field)に適用されることによって意味の拡張が生じると説明する。これに従うと、所有を表す à の機能は、à によって導かれる場所項が空間における存在を表す述語の項として生起するという基本的な構造が、所有の意味場に適用されたことによって生じたものであると捉えられる ([State BE_{Possession} ([[], [Place À ([[]])])])。)

次に、スペイン語の a がもつ対格標示の機能は、[+局所性]によって説明される。a の対格標示はすべての名詞句についてなされるのではなく、主に特定の人間を指示する名詞句に限られ、人間以外の存在であったり、人間であっても不特定である場合には a は生起しない。

(10) a. J'attends Marie. b. Espero a María. (26) a. J'ai visité l'Espagne. b. He visitado (*a) España.

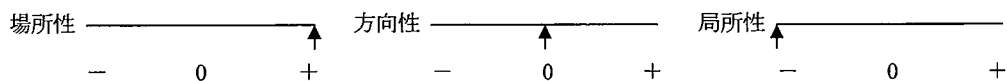
ある行為が限定された特定の存在、特に人間というかなり局所化された対象に対して行われる場合に、a による対格標示が行われると考えられる。行為の対象が特定の人間以外である場合、[+局所性]という意味

素性に合致しないために a による対格標示が行われないのである。

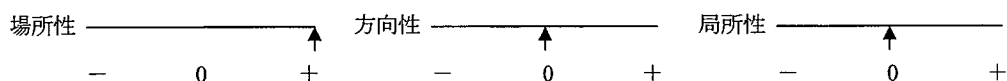
2. 2. en との関係

場所に関わる前置詞として à/a と隣接する関係にあるのが en である。この en についても、フランス語とスペイン語で違いが観察される。à/a との相違点を考慮に入れながら、両言語における en の意味特性を三つの素性から分析すると、以下のようになる。

フランス語の en



スペイン語の en



フランス語の en は、場所性に関しては「+」、方向性は無指定、局所性に関しては「-」である。場所及び方向性に関しては à と同じである。これは、既に述べたようにフランス語における場所を表す前置詞すべてに共通する点である。à と異なるのは[-局所性]である。[-局所性]とは、局所的なものと捉えられない場所、すなわち広がりをもつと認識される場所を表すのに用いられることを意味する⁵。

(27) a. aller en mer cf. aller à la mer b. en 2012

(27a)に見られるように、「(空路・陸路ではなく)海上に行く」のように海を広がりをもった場所として捉える場合には en が用いられるのに対し、「海へ行く」のように海を広がりをもたない着点として捉える場合には à が用いられる。また、年は時間的な単位としては広がりをもったものとして認識されるので、en が用いられる。

スペイン語の en は、場所性に関しては「+」、方向性及び局所性に関しては無指定である⁶。フランス語の en と異なり局所性が指定されておらず、競合する a が方向性と局所性に関して「+」であることから、局所的ではないあらゆる場所を表すのに用いられる。このため、フランス語よりも場所表現において頻繁に用いられる。

(16) a. être à Paris b. estar en Paris (28) a. au premier étage b. en el primer piso

一方、方向性を含意する場合には、スペイン語では[+方向性]の a が基本的に用いられる。フランス語では、選択される名詞との連語関係によって前置詞が決定される。

(20) a. aller en Espagne b. ir a España (29) a. aller à Paris b. ir a Paris

時間表現では、時間としての広がりをもつ月・年・世紀を表すにはスペイン語では一貫して en が用いられる。これに対してフランス語では、年については(27b)のように en が用いられるが、単位として広がりがそれ程大きくはない月の場合には、表現方法によって à が用いられたり en が用いられたりする。また、世紀は序数詞によって表現され、広がりよりも他の世紀との対比が意識されるため、局所性に関して無指定の à

が用いられると考えられる⁷。

(30) a. en (el mes de) mayo b. en (el año) 2012 c. en el siglo XX

(31) a. au mois de mai / en mai b. en (l'an) 2012 c. au XX^e siècle

à が用途(6a)を標示することができるのは、à によって導かれる場所項が属性の意味場に属する述語の項として生起可能なためであると考えられることができる ([_{State} ÊTRE_{Property} ([], [_{Place} À ([])]))。スペイン語では en によって導かれる場所項が属性の意味場に属する述語の項として生起不可能なため、用途を表すことができない。このため、名詞修飾で最も典型的に用いられる前置詞 de が用いられる。

a が終点(11)、移動の目的(12)及び名詞句における対象項(13,14,15)を表すことができるのは、a の[+方向性]による。à は方向性に関して指定されていないため、独自にこれらの意味を表すことはできず、前後関係を明示する après や「目的」を標示する pour、名詞修飾に用いられる de が用いられる。

à が属性(7a,8a,9a)を表す機能は、Benveniste (1966)や Dikken (1997)が述べている場所表現と所有表現の緊密な関係性によるものと説明できる。[+場所性]である à には、以下に示される場所表現から所有表現への変換操作が適用される。

(32) [x BEATy] → [y HAVE x]

Le livre est à moi. J'ai le livre.

この操作が前置詞 à にも適用され ([x À y] → [y À x])、属性の所有として捉えられるのである。スペイン語における[+場所性]の en にはこのような変換操作が適用されないため、属性は名詞修飾の de や所有の con で表されるのである。

3. 結語

以上、à と a の意味的な相違点に焦点をあてて分析を進めた。本稿で設定した三つの素性は、以下に示されるように両者の意味的共通性も説明できるものである。

(1) a. Je l'ai donné à Pierre. [+場所性] b. Se lo di a Pedro. [+方向性]

(3) a. La gare est à 500 mètres d'ici. [+場所性] b. La estación está a 500 metros de aquí. [+局所性]

(2) a. à six heures (4) a. aller à pied [+場所性]

(2) b. a las seis (4) b. ir a pie 名詞との連語関係により場所性を獲得⁸

à 及び a がそれぞれの言語における前置詞の体系においてどのような位置を占めているかを明らかにするには、両前置詞のより詳細な分析を進めると同時に、他の前置詞との意味機能に関する共通点・相違点を更に検討していかなければならない。これについては、稿を改めて論ずることとしたい。

註

¹ ただし、時・場所の標示に関しては、後に述べるように相違点も見られる。

² 本稿が言及する用例以外にも、両前置詞の機能が合致しない例が数多く観察される。

(動詞補語) (i) a. Je pense aux vacances d'été. b. Pienso en las vacaciones de verano.

- (名詞補語) (ii) a. La pente de l'intelligence de Gisors l'inclinait toujours à venir en aide à ses interlocuteurs. (A)
 b. La pendiente de la inteligencia de Gisors le inclinaba siempre a acudir en ayuda de sus interlocutores.

(その他の連語関係)

- (iii) a. Il lui arrivait aussi de chanter à voix basse des couplets entrecoupés de gémissements de douleur.

b. A veces le oía cantar en voz baja copillas entrecortadas por los accesos de dolor. (B)

これらの例を観察すると、フランス語の à の方がスペイン語の a よりも広く用いられる傾向が見られる。これらの例の分析については、今後の課題としたい。

³ (A), (B)の記号を付された用例は、辞書・使用テキストの同じ記号を付されたテキストからの引用である。

⁴ このように、ある要素の意味機能が、その要素のみで決定されるだけでなく、他の要素との組み合わせによっても決定されるという分析は、前置詞以外にも適用される一般的なものである。例えば、Jezek (2003)はイタリア語の動詞の意味分析に関してこのような方針で分析している。

⁵ フランス語の à と en の違いは、意味特性のみによって決定されるわけではない。以下に見られるように、語頭の音や性・数という文法カテゴリーが関与する。

i) a. au printemps b. en été ii) a. au Japon b. aux États-Unis c. en France d. en Iran

つまり、両前置詞の使い分けは、意味特性、形態的特性、文法カテゴリーが相互に関連して決定される。

⁶ 方向性に関して無指定なのは、cambiar yenes en euros のように着点を表す用法があるためである。

⁷ この事実は、à が[+局所性]ではなく、局所性に関して無指定であることを示している。

⁸ a によって導かれる場所項が時間 ([Place A_{Temp} ([])])・様態 ([Place A_{Manner} ([])]) の意味場に属する関数として生起可能であるために、時間・様態の意味を表すと考えられる。

参考文献

Ameye, Solange (2002) *Précis de grammaire espagnole*, Armand Colin, Paris.

Benveniste, Émile (1966) *Problèmes de linguistique générale, 1*, Gallimard, Paris.

Bruyne, Jacques de (1998) *Grammaire espagnole*, Duculot, Paris.

Cantera, Jesus and Eugenio de Vicente (1999) *Gramática francesa*, Ediciones Cátedra, Madrid.

Dikken, Marcel den (1997) "Introduction: The syntax of possession and the verb 'have'", *Lingua* 101, pp.129-150.

Gerboin, Pierre and Christine Leroy (2000) *Précis de grammaire espagnole*, Hachette, Paris.

Hernández Alonso, César (1984) *Gramática funcional del español*, Gredos, Madrid.

Jackendoff, Ray (1990) *Semantic Structures*, The MIT Press, Cambridge, London.

Jezek, Elisabetta (2003) *Classi di Verbi tra Semantica e Sintassi*, Edizioni ETS, Pisa.

Melis, Ludo (2003) *La préposition en français*, Ophrys, Paris.

辞書・使用テキスト

Brockmeier, Ralf et al. (2010) *Larousse dictionnaire compactplus français-espagnol espagnol-français*, Larousse, Barcelona.

Clari, Michela et al. (2007) *Le Robert & Collins les pratiques maxi espagnol*, Harper Collins Publishers, Glasgow.

Malraux, André (1946) *La Condition humaine*, Gallimard, Paris. (A)

Malraux, André (1979) *La condición humana*, Traducción de César A. Comet, Edhasa, Barcelona.

Pérez-Reverte, Arturo (2001) *El Capitán Alatriste*, Alfaguara, Madrid. (B)

Pérez-Reverte, Arturo (1998) *Le capitaine Alatriste*, traduit par Jean-Pierre Quijano, Éditions du Seuil, Paris.